

第4次島田市食育推進計画 施策評価シート

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
1 未来につなげる食育(共食の推進)	1-(1) 家族団らんなどによる楽しい食事の確保	園だより・給食だよりなどによる啓発	園だより・給食だよりを通じて、食の大切さ、家族団らんの大切さや栄養に関する情報提供などを行う。	献立検討会議 給食力レンダーの配布	献立会議 年11回 11回/年。小学校13校、中学校6校。	保育支援課 学校給食課	献立会議11回 11回/年(小学校13校、中学校6校)	◎ ◎	今後も各園1名ずつ出席し、栄養士と献立について検討 現状維持
		給食を通じた啓発	給食を通じて、食への関心を深める。	・園便り・献立表・給食便りの配布 ・保育参加時の給食試食 ・食事アンケート ・レシピの配布	園だより、給食だより、献立表を年12回配信 保育参加時の給食試食 食育アンケート レシピの配信 食育ポートの掲示	保育支援課	第一保育園 給食展示 月～金 給食実施 レシピ希望者に随時配布(カミカミメニュー含む) はっけいよアニマル体操の実施 給食の行事食の写真をメールにて家庭に配信(12回) 嗜好調査実施 年中児食育ボード掲示 第二保育園 給食展示 月～金 給食実施日 レシピ配布 希望者に随時 嗜好調査1回(乳児28人 幼児58人) 回答率99.9% 食育ボード掲示 年長児と共同	○	・食育に繋がるような事柄が起きた時には、随時配信にて保護者に啓発する。(育てた野菜のゆくえや子どものつぶやきなど) ・調理員も子ども達と一緒に給食を食べる(月2～3回) ・よく噛んで食べることの大切さをカミカミメニューや体操を継続して行うことで保護者にも伝えていく
	「食育の日」の啓発	園の食育推進基本計画で定められた6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」に、食事バランスガイドの普及や野菜摂取、適塩(減塩)、適切な食事摂取量を勧めるとともに、家族と一緒に楽しく食事をとる「共食」を推進する。	食育の日、食育の日普及啓発FMしただでの普及啓発	食育の日、食育の日普及啓発FMしただでの普及啓発の実施	食育の日、食育の日普及啓発FMしただでの普及啓発の実施	健康づくり課	食育月間・食育の日の啓発:減塩・適塩について、杏林堂島田駅南店にて啓発1回。	◎	食推協や他課と協働し取り組みが強化できている
			ふるさと給食週間	各校の教育計画により確実に実施	各校の教育計画により確実に実施した。	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	
			6月の「ふるさと給食週間」事業	毎年6月に実施	①生産者の学校訪問 3校3人 ②市関係者と児童生徒との試食会 2校17人	学校給食課	①生産者の学校訪問 3校3人 ②市関係者と児童生徒との試食会 2校17人	◎	継続していく
	幼児・児童・生徒を対象とした講座・料理教室などの開催	子どもを対象とする食育の講座や料理教室を開催し、調理の中で食育に結びつく内容を取り入れることで、子どもの食育への関心を高める。また、幅広い年代の幼児・児童・生徒が参加できるように考慮する。	親子料理教室、小・中学校・高等学校食育講座、児童クラブ食育教室	親子料理教室、小・中学校・高等学校食育講座、児童クラブ食育教室の開催	親子料理教室、小・中学校・高等学校食育講座、児童クラブ食育教室の開催	健康づくり課	親子料理教室3回 82人 児童クラブ食育教室 2回52人 高校生食育講座 1回142人	◎	健康づくりにつながる食育、食生活は児童生徒の関心も高く、特に高校では担当教諭の理解もあり講座の開催に結びついている。
			児童センター管理運営事業	実施回数 年2回(川根) 年4回(初倉)	子育て応援課	実施回数 年8回(川根) 年3回(初倉)	○	川根児童館では、目標を超えています。初倉では目標に届かなかったため、7年度は回数を増やしたい。	
			私もパティシエ(金谷公民館)	1回	社会教育課	全1回/延べ34人 (小学生19人、保護者15人)	☆	講師をプロのパティシエに依頼してきたが、講師の調整が難しいため、講師はプロ・アママを問わずお菓子づくりの講座として実施している。食育ではなく、職業体験の要素に趣きを置いている。募集定員以上の申込みがあるが、施設規模や指導者数に限りがあり増加できない状況にある。	
			おはなしカフェ(伊久身農村環境改善センター)	2回	社会教育課	全2回/延べ19人	◎	参加児童のニーズも踏まえ、調理内容を考えていく。	
			親子で楽しくクッキング(北部ふれあいセンター)	1回	社会教育課	未実施	×	R6は応募者がなく実施できなかった。今後は実施時期や内容をさらに検討し、有効な事業を行いたい	
			おはなしカフェ子供クッキング(北部ふれあいセンター)	9回	社会教育課	全9回/延べ57人	◎	毎年度、児童が興味を持って受講してくれており、引き続き充実させていきたい	
	親子を対象とした講座・料理教室などの開催	親子を対象とした講座や料理教室を開催し、調理する楽しさを知り、食について考える機会を提供する。また、幅広い年代の児童・生徒が参加できるように考慮する。	親子料理教室	親子料理教室の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人	○	父親との参加も微増傾向にあり、食育推進と同時にコミュニケーションツールとしての役割を果たしている。今後とも継続していく。	
父と子の料理教室(金谷公民館)			年1回	社会教育課	2回/延べ42人	☆	「父と子の親子」が対象なので、男性が参加しやすいと好評。募集定員以上の申込みがあるが、施設規模や指導者数に限りがあり増加できない状況にある。		
夏休み親子料理教室			年1回開催	学校給食課	親子料理教室1回 13組31人	○	継続していく		
保護者を対象とした講座・料理教室などの開催	保護者を対象とする食育の講座や料理教室を、給食試食会等も活用しながら開催し、保護者の食育への関心を高める。	親子料理教室、子育て支援センター健康教育、小学校学校家庭教育学級	親子料理教室、子育て支援センター健康教育、小学校学校家庭教育学級の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人	◎	母親だけでなく父親の参加も増加している		

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
				地域子育て支援センター運営事業 六合子供チャレンジクラブ	実施回数年3回 全8回実施	子育て応援課 社会教育課	実施回数年8回 全8回/延べ919人	☆ ☆	目標を超えたので今年度も続けたいです。 募集定員以上の申込みがあるが、施設規模や指導者数に限りがあり増加できない状況にある。
				パパママ教室、親子料理教室、子育て支援センター健康教育、小学校学校家庭教育学級	パパママ教室、親子料理教室、子育て支援センター健康教育、小学校学校家庭教育学級の実施	健康づくり課	きしゃぼっぽ・支援センター・保育園等での食育講座 3回65人 フレッシュパパママ教室5回87人	◎	多くの場で父親または両親の参加が増加している。食への関心も高くなり参加者も微増している。
		講座・料理教室の開催	出前講座などを開催し、栄養士による情報提供や食育の啓発を行う。料理教室などを開催し、地場産物や旬の食材などを活用しながら、自ら調理する力を養い、望ましい食習慣や食生活が身につくよう支援する。	六合公民館市民学級(健康料理教室/こんにやく作り/みそ作り) 六合公民館社会教育講座(和菓子講座) 施設や事業所等での講座、食生活相談、電話相談	各1回実施 全2回実施	社会教育課 社会教育課	各1回/延べ42人(高齢25人、味噌17人) 全2回/延べ20人	◎ ◎	市民学級生が減少傾向にあり、食育に対する啓発効果が減退することが懸念される。 参加者のニーズを踏まえ、講座内容を見直していく。
				施設や事業所等での講座、食生活相談、電話相談	施設や事業所等での講座、食生活相談、電話相談の実施	健康づくり課	施設や事業所等での講座1回4人、食生活相談 87人、電話相談 102人	◎	市内事業所からしまた塾等の申し込みが増加した。
				男性の料理教室	男性の料理教室の実施	健康づくり課	1回 17人	◎	男性の料理の必要性も重要度を増しており継続して事業を実施していく。
				六合公民館社会教育講座(ハロウィン、クリスマス、バレンタインお菓子教室)	各1回実施	社会教育課	全2回/延べ20人(ク13人、パ7人)	◎	参加者のニーズを踏まえ、講座内容を見直していく。
		男性などを対象とした料理教室などの開催	男性を対象とした料理教室を充実し、調理をする機会を通じて、食への関心を深める。	市民学級(料理教室)(金谷公民館) おやじの井戸端講座(金谷公民館)	1回 1回	社会教育課 社会教育課	2回/延べ27人 全3回/延べ43人	○ ◎	参加者のニーズを踏まえ、講座内容を見直していく。 内容にマンネリ感があるが、受講生の要望を聞きながら、無理のない講座の運営に努める。
				六合公民館社会教育講座 男の料理教室	全8回実施	社会教育課	全8回/延べ152人	◎	参加者のニーズを踏まえ、講座内容を見直していく。
				コーヒーの淹れ方教室(初倉西部ふれあいセンター)	2回	社会教育課	未実施	未実施	未実施
				六合公民館社会教育講座 コーヒー焙煎講座	1回実施	社会教育課	1回/11人	○	参加者のニーズを踏まえ、講座内容を見直していく。
				楽しいパンづくり(初倉西部ふれあいセンター)	3回	社会教育課	未実施	未実施	未実施
				クリスマスケーキづくり(初倉西部ふれあいセンター)	1回	社会教育課	未実施	未実施	未実施
				初倉公民館社会教育講座 男の料理	年7回実施	社会教育課	7回/延べ110人	◎	後期高齢期を迎えた段階の世代の参加理由として次の2つのケースが目立つ。 ①気の合う仲間との時間を過ごす場所を求めて ②これまで家事を担ってきた配偶者が高齢化したため、自分でも食事を作れるようになりたい。こうした背景を踏まえつつ、若い世代にも参加しやすい講座となるようニーズを探っていく。
				男の料理教室(金谷公民館)	1回	社会教育課	予定なし	×	予定なし
		「具だくさん島田汁」の普及活動	イベントを通じて「具だくさん島田汁」を提供し、食を通じた楽しいコミュニケーションの中で、「具だくさん島田汁」の普及を図る。	みんなで歩こうトランポウォーク、ふれあいまつり、歯と口の市民フェスティバル、しまだ大井川マラソン	みんなで歩こうトランポウォーク、ふれあいまつり、歯と口の市民フェスティバル、しまだ大井川マラソンでの普及活動の実施	健康づくり課	しまだ大井川マラソン1回600人 フェスタしまだ 1回300人 しまだ元気市 1回200人 金谷みんくる祭り1回380人 他事業 2回174人	◎	食協協と協力し市内のイベント等で普及啓発を行った。
				しまだ大井川マラソンinリパティ	具だくさん島田汁提供数:しまだ大井川マラソンinリパティ600食、川根桜まつり走ろう会550食	観光課	しまだ大井川マラソンinリパティ600食 川根桜まつり走ろう会600食	☆	現状課題はなく、今後も継続し食育に貢献していく予定。
		食糧支援事業の実施	食糧支援を希望する方にフードバンクを利用して食糧支援を行い、併せて生活困窮者の相談などを行う。	食糧支援事業	408件	地域福祉課	358件	☆	特定の方が度々利用することがあるため、適切な支援に結び付けた。
		しまだ夏休み子ども食糧支援事業の実施	給食がなくなる夏休み期間中に、子どものいる世帯に対し食糧支援を行い、相談機関に繋げる。(生活困窮者自立支援)	しまだ夏休み子ども食糧支援事業	関係機関・事業者との連携による事業実施	地域福祉課	443件	☆	物価高の影響もあり希望者は増加傾向だ。事業が継続できるようデータ周知等に取り組みたい。
		居場所等で食に関する情報提供や普及啓発	専門職、あるいは関連組織等と連携し望ましい食事や低栄養予防の食事及び「共食」の大切さなどの普及啓発を図る。	高齢者低栄養予防事業	高齢者低栄養予防事業での普及啓発の実施	健康づくり課	シニアカフェ 4回 85人 健康教育 7回 130人	◎	低栄養予防講座など取り組みを強化した。
		障害がある人への食以降の推進や栄養改善の周知	障害がある人を対象に食育の啓発や生活習慣病予防、健康維持増進のための栄養改善を健康教育等で周知する。	施設や事業所等での講座、食生活相談、電話相談	施設や事業所等での講座、食生活相談、電話相談の実施	健康づくり課	施設や事業所等での講座1回4人、食生活相談 12回12人、電話相談 14回 8人	◎	健康づくりにつながる食への関心度は高く、講座や相談を行った。
		子どもの食事を確保する場を提供する環境づくりへの支援	こども食堂など、子どもやその保護者及び地域住民に対し栄養価考慮した食事や楽しく温かな団らんを提供する環境づくりを支援する。	こども食堂	市内 6ヵ所以上で実施	子育て応援課	6ヵ所で開催	◎	孤食や貧困、虐待の防止のため、開催頻度や団体の増加を目指したい。

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
1 未来につなげる食育(共食の推進)	1-(2) 食に関するマナーの習得	食事のマナーの指導	給食の時間を通じて、望ましい食事のマナーを、日常の中で意識できるように指導する。	食育計画の作成	各歳児年間食育計画の作成	保育支援課	年度当初に計画の見直し、検討。クッキングや年齢ごとに必要な正しいマナーの指導を行う カミカミメニューを取り入れる	○	カミカミメニューを献立に取り入れ、よく噛んで食べることにより顎の発達など大切さを知ったので今後も継続して声掛けをしていく
				給食時間における食育指導	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	
				給食の時間における食に関する指導	給食時間183回/年	学校給食課	給食時間183回/年	◎	現状維持
		正しい箸の持ち方や食器の置き方の指導	家庭科の授業等を通じて、和食の作法等を指導する。	家庭科や総合的な学習の授業	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	
		親子料理教室などにおける食事のマナーの指導	親子料理教室などを通じて、食育講話とともに望ましい食事のマナーの指導を行う。	親子料理教室、児童クラブ食育教室、家庭教育学級、学校保健委員会	親子料理教室、児童クラブ食育教室、家庭教育学級、学校保健委員会の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人 児童クラブ食育教室 2回52人 高校生食育講座 1回142人	◎	多くの食育啓発の場において同時に望ましい食事マナーも啓発している。今後とも継続していく。
給食試食会などの開催	栄養士・栄養教諭などを講師に招き、食事のマナーと、安全・安心な食材で栄養バランスのとれた食事について学ぶ機会を設定する。	食育部会	食育部会で調理実習	保育支援課	9/10 藤枝クリッピープラザ 18人参加 米粉・アガーを使った料理を教えてくださいました。教えていただいたものを実際に子どもに提供した。	◎	継続		
			栄養教諭と連携した授業の実	280時間	学校教育課	280時間	◎		
1-(3) 食・お茶文化の継承	お茶の淹れ方教室の実施	おいしいお茶の淹れ方を体験し、急須で淹れたお茶のおいしさを実感してもらうとともに、お茶の文化・歴史、効能などを知ることにより、市の主要農産物であるお茶への関心を高める。	小学生・高校生向けお茶の淹れ方教室	200人	農業振興課	431人	◎	引き続き学校等に積極的な開催を促していく。	
			社会人向けのお茶の淹れ方教室	200人	農業振興課	40人	△	学生と保護者が一緒に体験できる開催方法を検討していくとともに、改めて積極的に開催を推進する。	
	授業等で和食の良さを学ぶ	授業等で、和食が栄養バランスに優れていることを学ぶ機会をつくる。	家庭科や総合的な学習の授業	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎		
	学校・保育園などにおける郷土料理・行事食の実施	給食において、郷土料理や行事食を取り入れ、その意義や由来などについて情報提供を行う。また、地域の高齢者などを学校や園に招き、料理についての情報を得る機会を設ける。	行事食の実施	給食を通じて、季節にあった食材や行事食を実施	保育支援課	第一保育園 行事食14回(新入園児を祝う会・端午の節句・七夕・園祭り・ハロウィン・七五三・クリスマス・新年お祝い・五平餅・七草がゆ・節分・ひな祭り・バイキング給食・卒園お祝い) リクエスト給食 年長児25人分 第三保育園 行事食12回(端午の節句・夏祭り週間・七夕・ハロウィン・七五三・クリスマス・七草がゆ・五平餅・節分・ひなまつり) リクエストメニュー21人分	◎	継続	
	病院食における行事食の実施	入院患者にも家庭にいる時と同じように、行事食を味わってもらう機会を設ける。	行事食の提供	行事食30回/年	学校給食課	32回/年	○	現状維持	
	和食に関する優れた授業実践例の紹介	食育担当者研修等で、栄養教諭とのTT授業*について優れた指導案を配布し、実践に役立てる。	食育担当者研修会	食育に関する授業の指導案集の配布	学校教育課	食に関する指導を年3回機会を設けて栄養教諭と指導案について検討した。	◎	継続	
	郷土料理・行事食の普及啓発	健康づくり食生活推進協議会、保健委員協議会などと連携した料理教室などを通じて、地域に伝わる郷土料理・行事食の普及啓発を行う。	児童クラブ食育教室、親子料理教室、減塩手作り味噌伝達講習会、しずおかのおかず紹介	児童クラブ食育教室、親子料理教室、減塩手作り味噌伝達講習会、しずおかのおかず紹介の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人 児童クラブ食育教室 2回52人 減塩手作り味噌伝達講習会 7回18人	○	食推協などを活用し、地域においても多くの食育啓発の場において行事食や伝統食を啓発している。今後とも継続していく。	
	文化合宿の誘致	全国屈指の茶どころである本市の特徴を活かし、大学などの茶道部の合宿を誘致し、茶室体験や茶摘み体験など地域に根付く文化を広くPRする。	スポーツ・文化合宿誘致促進事業	茶道部合宿実施件数:8件 宿泊延人数:160人	観光課	茶道部合宿実施件数:3件 宿泊延人数:62人	△	コロナ禍で合宿が0件になったところから徐々に実施回数が回復してきている。中京圏や首都圏に誘致活動を行っている。	
	T-1グランプリ*の実施	小学生を対象としたT-1グランプリを開催する。	T-1グランプリ	事業回数1回 参加人数80人	農業振興課	事業回数1回 参加人数53人	○	現状、島田地区の小中学生のみを対象とした開催に留まっているため、市内全ての地区の小中学生を対象にした開催を検討していく。	
	お茶教育の実施	茶業関係者と連携し、お茶教育(学校給食茶の提供、お茶の淹れ方教室、食育講座等)を実施する。	学校給食茶の提供	贈呈量:660kg (島田地区:500kg 金谷地区:160kg 川根地区:0kg)	農業振興課	贈呈量:821kg (島田地区:621kg 金谷地区:200kg 川根地区:0kg)	☆	引き続き、市内保育園や小学校などにお茶を贈呈し、給食時に市内の美味しいお茶を飲んでもらい、子どもたちの健康増進のために、お茶を飲む習慣を推進する。	
【上記再掲】 お茶の淹れ方教室 お茶の淹れ方の普及(食推協へ県の委託事業)			700人	農業振興課	471人	○	引き続き学校等に積極的な開催を促していく。		
		お茶の淹れ方の普及(食推協へ県の委託事業)	お茶の淹れ方の普及の実施	健康づくり課	児童クラブ 1回40人	○	食育推進計画に基づき、児童クラブ等で主産業であるお茶の推進を啓発している。今後とも継続していく。		
新婚カップル茶器等贈呈事業	本市へ婚姻届を提出し、市内に在住する新婚家庭へ茶器等を贈呈する。	新婚カップル茶器等贈呈事業	贈呈数:200セット	農業振興課	贈呈数:159セット	○	引き続き市内に在住する新婚・宣誓カップルへ茶器等を贈呈する。		

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自 己評価	課題と今後の方向性
		手揉み茶技術の伝承	手揉み茶技術を後世に伝えていくため、伝承技術の創出と活動の支援を行う。	小学校での手揉み茶実演 手揉み茶実演機会の創出(新年初 揉式)	受講人数 200人	農業振興課	・小学校での手揉み茶実演 5回 319人 (島田地区 3回 219人 金谷地区 1回 83人 川根地区 1回 17人) ・新年初揉式 1回	☆	引き続き、手揉み茶技術を後世に 伝えていくため、伝承技術の創出 と活動の支援を行う。
		お茶を活用した健康づくりや食 育の推進	県の「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に 関する条例」を周知する。	【上記再掲】 お茶の淹れ方教室	500人	農業振興課	431人	◎	引き続き学校等に積極的な開催 を促していく。
	【上記再掲】 T-1グランプリの実施			事業回数1回 参加人数80人	農業振興課	事業回数1回 参加人数53人	○	現状、島田地区の小学生のみを対 象とした開催に留まっているた め、市内全ての地区の小学生を対 象にした開催を検討していく。	
	【上記再掲】 学校給食茶の提供			贈呈量:660kg (島田地区:500kg 金谷地区:160kg 川根地区: 0kg)	農業振興課	贈呈量:821kg (島田地区:621kg 金谷地区:200kg 川根地区: 0kg)	☆	引き続き、市内保育園や小学校な どにお茶を贈呈し、給食時に市内 のおいしいお茶を飲んでもらい、 子どもたちの健康増進のために、 お茶を飲む習慣を推進する。	
		闘茶大会の実施	小学生を対象としたT-1グランプリ*を開催する。	T-1グランプリ	事業回数1回 参加人数80人	農業振興課	事業回数1回 参加人数53人	○	現状、島田地区の小学生のみを対 象とした開催に留まっているた め、市内全ての地区の小学生を対 象にした開催を検討していく。
				小学生を対象としたCha-1グランプリ(静岡県主催) に、市内児童が参加する。	Cha-1グランプリ		農業振興課	成績上位者:1名(2位)	○

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
2 みんなでつなげる食育(協働と連携)	2-(1) 食に関するネットワーク体制の充実	病診連携ネットワークによる栄養食事指導の実施	開業医に通院する患者の病気治療をサポートするために、開業医からの依頼を受け、外来で栄養食事指導を実施する。	病診連携栄養食事指導	100件	総合医療センター	95件実施	○	R7年度から常勤の糖尿病内科医師が不在となり事業の継続については検討中
		食育推進ネットワーク体制の整備	食育を推進するため、地域や関係団体と連携し、食育推進ネットワークを構築する。	島田市食育推進委員会 島田市小中学校食育推進委員会 島田市産地消連絡協議会	島田市食育推進委員会の開催、島田市小中学校食育推進委員会・島田市産地消連絡協議会への出席	健康づくり課	島田市食育推進委員会 2回 島田市小中学校食育推進委員会 1回	◎	計画どおり実施した。
		健康教育の実施	地域や健康づくり食生活推進協議会、保健委員と連携し、健康教育を実施する。	食育講座、生活習慣病予防講座(健康づくりセミナー)保健委員地区講座、地域ふれあいででの健康教育等	食育講座、生活習慣病予防講座(健康づくりセミナー)保健委員地区講座、地域ふれあいででの健康教育の実施	健康づくり課	保健委員地区健康講座:7回	◎	計画どおり実施した。
		健康づくり食生活推進員の養成・育成	研修などを通じて、健康づくり食生活推進員の養成や資質の向上を図る。	食推協学習会、研修会食生活推進員養成講座	食推協学習会、研修会食生活推進員養成講座	健康づくり課	食推協学習会 60回 772人	◎	計画どおり実施した。
		市内栄養士連絡会の開催	栄養業務の資質を高めるため、各部門で勤務する栄養士が集まり、現状や課題に関する情報交換や勉強会を開催する。	島田市市内栄養士連絡会	島田市市内栄養士連絡会の開催	健康づくり課	他課に正規栄養士の配置がないため未実施。	△	他課にも正規栄養士が配置されたら実施していく。
		健康づくり食生活推進協議会による栄養講座の開催	健康づくり食生活推進協議会と連携し、栄養講座を開催する。	ヘルシー教室、小学校児童クラブ等の食育教室	ヘルシー教室、小学校児童クラブ等の食育教室の開催	健康づくり課	児童クラブ食育教室 2回52人 幸せ未来ここカラダ講座3回34人	◎	計画どおり実施した。
		健康づくり食生活推進協議会や保健委員協議会による食育の推進	健康づくり食生活推進協議会や保健委員協議会が地域に根ざした活動をしていくことで、市民全体の健康づくりへの意識の向上を図る。	地区講座、地域ふれあい、イベント、公民館事業等	地区講座等への参加	健康づくり課	保健委員地区健康講座:7回	◎	計画どおり実施した。
		おいしくヘルシー応援店を増やし、正しい食情報を提供する環境を整備	地域の飲食店がおいしくヘルシー応援店に登録することで、店への信頼感が高まり、市民の食に対する意識の向上や、市民が栄養成分表示や安全な食材など、健康に配慮した食事を選ぶことができる環境づくりを推進する。	健康マレージ推進事業	おいしくヘルシー応援店:40店舗	健康づくり課	おいしくヘルシー応援店:30店舗	○	年2か所増やしていきたい。新規店舗の確保に苦慮している。また登録してくれた店舗とのコミュニケーションが取れていない。健康づくりの取組に協力してもらえるよう依頼していく。
		フードドライブの推進(再掲)	余っている食品の寄付を市民や市内の事業者等へ呼びかけ、収集してフードバンクへ提供する。市役所や公民館に食品回収ボックスを設置する。	食糧等支援事業	強化月間 4回 収集量 2,484kg	地域福祉課	強化月間 4回 収集量 3,360kg	☆	目標以上に達成できているため、現在の収集量を維持できるように、現在の活動を継続する。
		2-(2) 食を通じた交流の機会の確保	生産者などと消費者との交流促進	生産者や事業者と消費者との交流の機会を通じて、農作物の栽培から食べるまでの過程を学ぶとともに食と農林業の大切さについて理解を深める。	島田産業まつりの開催	55000人	商工課	53000人	◎
栄養教諭との連携による授業の充実	栄養教諭をゲストティーチャーとして招き、食に関する興味・関心を高められるような授業を実施する。		栄養教諭と連携した授業の実施	280時間	学校教育課	栄養教諭と連携した授業の実施 280時間	◎	継続	
食を通じた仲間づくりの促進	各種講座などを通じて、食について楽しく学びながら仲間づくりを促進する。男性向けの料理教室の充実を図る。		パパママ教室、いきいきママ教室、離乳食講座、健康づくりセミナー等	パパママ教室、離乳食講座、健康づくりセミナーの実施	健康づくり課	フレッシュパパママ教室 5回87人 いきいきママ教室(事業なし) 離乳食講習 12回 244人 男の料理教室 1回 17人	○	フレッシュパパママ教室は、令和7年度も5回実施していく。	
食を通じた親子がふれあう機会の充実	体験学習などを通して、親子でふれあう機会を提供する。		離乳食講座等	離乳食講座等	健康づくり課	離乳食講習 12回 244人	◎	計画どおり実施した。	
給食試食会などの開催(再掲)	給食を通して、栄養士などを講師に子どもの食のマナーと安全・安心な食材で栄養バランスのとれた食事について学習する。		給食・おやつ試食会	保育参加時の給食試食	保育支援課	第一保育園 感染予防のため試食中止 第二保育園 試食再開(保育参加時)	○	・嗜好調査の結果を配信で知らせ、食について関心が持てるようにする。 ・第一保育園 R7年度より給食試食再開予定	
子どもの食事を確保する場を提供する環境づくりへの支援	こども食堂など、子どもやその保護者及び地域住民に対し栄養価考慮した食事や楽しく温かみのある環境づくりを提供する。		子ども食堂	市内 6カ所以上で実施	子育て応援課	6カ所で開催	◎	孤食や貧困、虐待の防止のため、開催頻度や団体の増加を目指したい。	

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
2-(3) 食に関する情報提供の充実	災害時の備蓄食料に関する啓発		乳幼児や高齢者のいる家庭、食物アレルギーのある人などに対して、災害時に必要な食料を日頃から自分たちで備蓄しておくよう、講座やホームページ、広報紙などで啓発する。	FMLしただでの啓発 防災食の普及啓発	FMLしただでの啓発・防災食の普及啓発の実施	健康づくり課	広報誌に掲載1回	◎	計画どおり実施した。
				出前講座 (災害なんでも教室) 市民学級高齢者学級	出前講座の際に備蓄食料に関する情報を紹介する。	危機管理課	出前講座実績 32回 1340人	◎	南海トラフ地震を想定した備蓄についてより啓発していく。
	講座を通じた食育の啓発	講座を通じて、食に関する情報提供や食育に関する啓発を行う。	市民学級高齢者学級	2回	社会教育課	7回/156人	◎	【六合】 市民学級生が減少傾向にあり、食育に対する啓発効果が減退することが懸念される。 【初倉】 参加者が固定化する傾向にある。これまで参加したことのない方々への動機付けにつながるアイデアを、引き続き模索していく。 【伊久身】 フレイル防止講座の一環として講座内容に組み込んでいきたい。 【中央高齢】 今後も食に関する講座を取り入れていきたい。	
	保育園、幼稚園、こども園、学校における食育の啓発	食文化の継承や食に関する自己管理能力の育成を図るなど、食育に関する啓発を担当課が連携して行う。	・園便り・給食便りや行事食の実施 ・食育計画の作成	園だより、給食だより、献立表の配信	保育支援課	園だより・給食だより 公立保育園2園×12回	◎	栄養士と相談をし、現在抱えている食の話題で給食だよりを作成してもらう。	
	各種相談・訪問事業や教室	各種相談・訪問事業や教室やICTを活用した食に関する情報提供を行う。	相談事業、講座、健康教育事業等 フレッシュババママ教室	相談事業、講座、健康教育事業、フレッシュババママ教室の実施	健康づくり課	フレッシュババママ教室5回87人	○	令和7年度も5回実施し、対象者へ情報提供し参加人数を増やしていく。	
	健康づくり食生活推進協議会や保健委員協議会による食育の推進(再掲)	健康づくり食生活推進協議会や保健委員が地域に根ざした活動をしていくことで、市民全体の健康づくりへの意識の向上を図る。	地区講座、地域ふれあい、イベント、公民館事業等	地区講座、地域ふれあい、イベント、公民館事業の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人 児童クラブ食育教室 2回52人 減塩手作り味噌伝達講習会 7回18人 リパティin大井川マラソン1回600人 しまだ元気市1回200人 フェスタしまだ1回300人 他	○	食推進と協働し市内のイベントや公民館事業、育講座等で実施した。今後とも継続していく。	
	「食育の日」の啓発(再掲)	国の食育推進基本計画で定められた6月の「食育月間」や毎月19日の「食育の日」に、食事バランスガイドの活用や野菜摂取を勧めるとともに、家族と一緒に楽しく食事をとる「共食」を推進する。	食育の日、食育の日普及啓発 FMLしただでの普及啓発	食育の日、食育の日普及啓発 FMLしただでの普及啓発の実施	健康づくり課	食育月間・食育の日の啓発：減塩・適塩について、杏林堂島田駅南店にて啓発1回。	◎	食育月間・食育の日の啓発：減塩・適塩について啓発した。今後も継続していく。	
	地産地消に関する情報提供	地場産物の生産状況や朝市・マルシェ等の情報を収集し、ホームページの情報を更新したり、市のLINEで開催案内を発信する。	・朝市等イベントの情報発信	朝市、マルシェ等の情報発信を開催の都度行う。	農業振興課	発信なし。	×	朝市を継続して開催できる団体が減少しており、朝市として活動を続けているか不明な店もあるため、確認の必要がある。	
	「食育月間」や「食育の日」の実践の紹介	食育担当者研修会等を通して各校の実践を紹介し合う機会を設定する。	食育の日の啓発	年1回の実施	学校教育課	食育の日の啓発活動(年1回)	◎	継続	
	ICTを活用した情報提供	献立などの食に関する情報を提供する。	電子媒体等への献立の掲載	電子媒体等で献立情報を市民へ配信する	健康づくり課	献立掲載3回	○	子育て支援課のしまいくにおいて、献立情報を掲載。	

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
3 元気に つながる食 育(食生活 習慣の改 善)	3-(1) 栄養バランスの とれた食事の適 量の確保	配食サービスの実施	調理が困難な障害者や高齢者のみの世帯に対して、 栄養バランスのとれた昼食を定期的に提供すると ともに、安否確認を行う。	高齢配食サービス事業	必要とされる高齢者にサー ビスを提供する。	長寿介護課	26,568食	☆	新規利用者が増加傾向。今後、対象 者に対して適切な利用食数を配食 していきたい。
				障害者配食サービス事業	必要な人にサービスを提供す る	障害福祉課	(ごはんとおかずセット) 利用者 2人 配食数 450食 (おかずのみ) 利用者 2人 配食数 538食	◎	利用者が減少しているという 課題は残るが、今後も相談員 を中心に適切な配食サービス を提案していく。
	専門職による指導	子どもから高齢者まで幅広い年代に対して、望ましい 食習慣や適切な食事摂取量あるいは低栄養予防、フ レイル・サルコペニア予防等での、食に関する内容や 栄養について、管理栄養士等により指導を行う。	食生活相談、健康教育、食育講 座	食生活相談、健康教育、食育講 座の実施	健康づくり課	食生活相談 194人 健康教育68回 1,039人 健康チェック&健康相談5回42 人 幸せ未来ここカラダ講座 3回34人	◎	妊娠から高齢期の方まで、食育 講座、健康教育、しまだ塾、市内の 高等学校等のあらゆる場で低栄 養予防の講義などを実施した。今 後も継続していく。	
			園便り・給食だより	園だより、給食だより、献立表 の配信	保育支援課	公立保育園2園×12回 第三保育園・週1回 出汁を主流とした 和食の日	○	継続	
			食に関する情報提供	①献立会議(年11回) ②給食カレンダーでの献立内 容の紹介や使用食材の情報提 供 ③給食物資選定会議(年13 回) ④ホームページで給食献立の 紹介/毎日	学校給食課	①献立会議(年11回) ②給食カレンダーでの献立内容 の紹介や使用食材の情報提供 ③給食物資選定会議(年13回) ④ホームページで給食献立の紹 介/毎日	◎	現状維持	
			①地域の高齢者を対象とした 健康講座 ②院内の講座 ③院外の講座	依頼があれば実施する	総合医療センター	①R7.2.4ふれあいしまだ塾:参 加者35人	○	依頼があれば実施する	
			親子料理教室、健康づくりセミ ナー、食推協学習会	親子料理教室、健康づくりセミ ナー、食推協学習会の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人 食推協学習会 60回 772人	○	妊娠から高齢期の方まで、食育 講座、健康教育、しまだ塾、市内の 高等学校等のあらゆる場で低栄 養予防の講義などを実施した。今 後も継続していく。	
			子どもの食事を確保する場を提 供する環境づくりへの支援(再 掲)	子ども食堂など、子どもやその保護者及び地域住民 に対し栄養価考慮した食事や楽しく温かな団らんを 提供する環境づくりを支援する。	子ども食堂	市内 6カ所以上で実施	子育て応援課	6カ所で開催	◎
	料理教室の開催	参加しやすい料理教室を検討し、料理教室を通じて、 自ら調理する力を培い、調理の楽しさと望ましい食 習慣や食生活が身につくよう支援する。	児童センター管理運営事業	実施回数 年2回(川根) 年4回(初倉)	子育て応援課	実施回数 年8回(川根) 年3回(初倉)	○	初倉が回数は目標に少し届かな かったものの、川根は目標以上 だったので、7年度も続けていき たい。	
			楽しいパンづくり(初倉西部ふ れあいセンター)	3回	社会教育課	全3回/延べ38人	○	参加者のニーズを踏まえ、講座内 容を見直していく。	
			コンニャクづくり教室(初倉西 部ふれあいセンター)	2回	社会教育課	全2回実施 (1回目 15人) (2回 14人)	○	参加者のニーズを踏まえ、講座内 容を見直していく。	
			梅干し作り教室(初倉西部ふれ あいセンター)	2回	社会教育課	全2回実施/延べ20人	○	参加者のニーズを踏まえ、講座内 容を見直していく。	
			伊太の梅で梅しごと(北部ふれ あいセンター)	2回	社会教育課	全2回実施/延べ17人	◎	地元特産品の食材を使った講座 ということで好評をいただいで おり、継続していきたい。	
			初倉公民館社会教育講座 初倉料理教室	年7回実施	社会教育課	7回/延べ112人	◎	毎回、様々なメニューに挑戦でき るよう、講師が工夫してくれて いる。食育を推進する機会となる よう、継続的な運営に努める。	
	栄養に関する介護予防の推進	訪問による個別指導が必要な高齢者を対象に管理栄 養士等が自宅を訪問し、栄養状態の維持向上を図る。 また、自立支援型地域ケア会議を開催し、管理栄養士 等の専門職の意見から適切なケアマネジメントによ る有効な支援を実施する。	訪問型介護予防指導事業	利用者実人数:5人 回数:15回	包括ケア推進課	利用者実人数:5人 回数:7回	○	必要な人に訪問を調整した。	
			地域ケア会議推進事業	検討:30人、回数:12回	包括ケア推進課	検討:23人、回数:12回	○	月1回の開催を継続していく。要 介護者の検討も視野に入れてい く。	
	日本型食生活の推進	米、大豆、野菜、魚、畜産物や乳製品などをバランスよ く取り入れた日本型食生活の良さを啓発する。	FMLまでの普及啓発食育の 日、食育月間での普及啓発、市 内イベントでの普及啓発	FMLまでの普及啓発食育の 日、食育月間での普及啓発、 市内イベントでの普及啓発の 実施	健康づくり課	広報誌12回	◎	テーマに合わせ広報誌に掲載し た。今後も継続していく。	
	各種相談・訪問事業や教室を通 じた栄養指導の実施	各種相談・訪問事業や教室・健康教育や出前講座など あらゆる機会を通じて、栄養指導を行う。	食生活相談、健康チェック&健 康相談、訪問栄養指導	食生活相談、健康チェック&健 康相談、訪問栄養指導の実施	健康づくり課	食生活相談 194人 健康チェック&健康相談5回42 人 訪問栄養指導 48人	○	講座や健診結果等から訪問支 援が必要な方に実施した。今後も 実施していく。	
	食事バランスガイドを活用した健 康教育講座の開催	各種相談・訪問事業や教室・健康教育講座などあらゆる 機会を通じて、適正な食事量と食事バランスガイ ドを活用した栄養指導を行う。	食生活相談、健康チェック&健 康相談、訪問栄養指導	食生活相談、健康チェック&健 康相談、訪問栄養指導の実施	健康づくり課	食生活相談 194人 健康チェック&健康相談 5回 42人 訪問栄養指導 48 人	○	食育講座、健康教育、相談事業等 においてバランスガイドを活用し 栄養バランスを啓発した。今後も 継続していく。	

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自 己評価	課題と今後の方向性
		「具だくさん島田汁」を活用した啓発活動の実践	学校や保育園などの給食や学びの場で、「具だくさん島田汁」を提供し、栄養バランスのとれた食事の大切さを周知する。	小学校食育教室、児童クラブ食育教室	児童クラブ食育教室の実施	健康づくり課	児童クラブ食育教室 2回52人	○	具だくさん島田汁を通してバランスが取れた食事の啓発を実施した。今後とも継続していく。
				給食で島田汁の提供	季節に合った島田汁の提供	保育支援課	月に1回は、給食で島田汁の提供。季節に応じて内容、味付けなど食材に変化を持たせる。	◎	継続
				おしまちゃんランチの提供	11回/年	学校給食課	11回/年	◎	現状維持
		子育て支援センターでの食生活指導の実施	子どもの健やかな発育のために、栄養バランスのとれた食事の重要性を周知し、保護者に対する食生活指導を行う。	地域子育て支援センター運営事業	実施回数年3回	子育て応援課	実施回数年8回	☆	離乳食を中心に食育に取り組むことが出来ているので続けていきたい。
生活習慣改善指導・健康教育(集団)の実施	特定保健指導対象者や糖尿病・糖尿病性腎症・高血圧該当者等を対象に、適正エネルギー量やバランスのよい食事を選ぶ力を身につけるためのセミナーを実施する。	健康応援セミナー、DKDゼミナール	参加率:定員の8割	国保年金課	健康応援セミナー 3クール×4回 計12回 ・参加者延べ人数168人(参加率70%) DKDゼミナール 1クール×4回 計4回 参加実人数 22人(参加率73.3%)	○	生活習慣病の重症化予防のために、対象者を検討し、引き続き実施していく。参加率を高めるために、実施時期や講座内容の検討が必要。		
事業者への情報提供や事業実施の支援	市内の事業所等へ減塩や野菜摂取の推進など生活習慣病発症・重症化予防のための情報提供や取り組み等の支援をする。	事業者から出前講座等の依頼による健康教育等	健康教育の実施	健康づくり課	健康教育 36回 1039人	○	しまだ塾等出前講座や依頼があった事業者等に対し健康教育を実施した。今後とも継続していく。		

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
3 元気に つながる食 育(食生活 習慣の改 善)	3-(2) 規則正しい食 生活の実践	「早寝・早起き・朝ごはん」の推進	子どもの基本的な生活習慣の確立や生活リズムの向上につながる「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。	親子料理教室、ヘルシー教室、食推協学習会、学童クラブ食育教室	親子料理教室、ヘルシー教室、食推協学習会、学童クラブ食育教室の実施	健康づくり課	親子料理教室3回 82人、フレッシュババママ教室 5回87人 食推協学習会 60回 772人 児童クラブ食育教室 2回52人	○	食育講座や乳児健診、相談事業等あらゆる場で生活習慣、生活リズムの重要性を啓発した。今後とも継続していく。
				クラス懇談会や健康便りや給食便りの配布	生活リズムの大切さを給食便り(4~5月)や保育参加後の面談で伝える	保育支援課	給食だより 12回 第一保育園 保育参加の日に個人面談 第三保育園 行事の時に懇談会	○	継続
				しまおや講座	13回(市内全小学校)	社会教育課	13回/延べ633人	◎	参加者のニーズを踏まえ、引き続き実施していく。
		朝食の意義の啓発	授業参観、懇談会等の場で、朝食の意義について保護者に啓発する。	朝食について保護者への啓発	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	継続
		生活習慣病予防対策の充実	生活習慣病の予防のため、定期的な健康診査に基づき食生活の改善の指導などを充実する。また、子どもの頃からの生活習慣病予防対策の充実に努める。	食生活相談、家庭教育学級、小中学校授業での健康教育	食生活相談、家庭教育学級、小中学校授業での健康教育の実施	健康づくり課	食生活相談 194人 その他の食相談18人	○	子どもの食育講座、食生活・栄養に関する相談等の多くの場ですこいころからの食習慣の大切さを啓発した。今後とも継続していく。
	3-(3) 選択力の向上	栄養成分表示などの推進	飲食店などにおける栄養成分表示などを促進するとともに、栄養成分表示を自己管理に活用するよう啓発する。また、「食品表示制度」の周知を図る。	健康教育、FMUまだ等での啓発	健康教育、FMUまだ等での啓発の実施	健康づくり課	健康教育 36回 1,039人	○	食推協等のソーシャルキャピタルを活用し啓発した。今後とも継続していく。
				給食だよりへの掲載	給食だより・献立表に栄養価を掲載 給食展示	保育支援課	公立保育園2園×12回	◎	継続
				給食だよりへの掲載	11回/年	学校給食課	11回/年 小学校13校 4795人 中学校6校 2406人	◎	現状維持
		選択力に関する知識の普及	食事バランスガイド等を活用し、栄養成分や食事摂取量、食の安全など自分の体の状態にあった食品や献立を選ぶことや、食品の鮮度を見極めることができるよう、選択力を高める講座や教室を開催する。	健康教育、食推協研修会	健康教育、食推協研修会の実施	健康づくり課	健康教育 36回 1,039人 食推協研修会 7回 263人	○	健康教育、各種研修会等で実施した。今後とも継続していく。
				市民学級高齢者学級	1回	社会教育課	3回/44人	☆	参加者が固定化する傾向にある。これまで参加したことのない方々への動機付けにつながるアイデアを、引き続き模索していく。
3-(4) 噛む力の育成	予防歯科の推進	幼児や児童生徒を対象とする定期的な歯科検診や成人を対象とする歯周疾患検診を実施し、フッ化物塗布・洗口、ブラッシング指導による歯磨き習慣の重要性の啓発を行います。	健康教育(ブラッシング指導) フッ化物洗口 フッ化物塗布	健康教育を市内全幼保園・小中学校で実施。フッ化物洗口実施施設数の継続維持 小学生フッ化物塗布の実施率25%	健康づくり課	【塗布】 幼児:72回 延1,742人 小学生:12回 延1,123人 12% 【洗口】 園:23園 1,718回 延82,608人 小中学校:2校 35回 延2,824人 【健康教育】 園:24園 899人 小学校:16校 868人	◎	乳歯のう蝕有病者率は減少傾向にあるが、永久歯の有病者率は他市より高い。健康格差縮小のためにフッ化物を併用した歯みがき習慣の啓発を継続していく。	
			・健康づくり課の歯科衛生士によるブラッシング指導 ・フッ素洗口	年1回歯科衛生士によるブラッシング指導 4,5歳児対象フッ素洗口の実施	保育支援課	第一保育園 フッ素洗口 4歳児21人 延43回 5歳児26人 延50回 ブラッシング指導 4,5歳児 計44人 第三保育園 フッ化物洗口 4歳児19人 延31回 5歳児20人 延50回 ブラッシング指導 4,5歳児 計38人	◎	フッ素が苦手な子はフックラウがいをし、タイミングをみながらフッ素にも誘う	

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性
				1歳6ヶ月児健診 3歳児健診 妊婦歯科健診 歯周疾患検診	1歳6ヶ月児及び3歳児の歯科健診実施率100% 歯周疾患検診受診率10% 過去1年間に歯科健診を受診した人の割合(20~74歳)50%	健康づくり課	【歯科健診実施率】 1歳6か月児 531人 98.5% 3歳児 635人 100% 歯周疾患検診 6.5%	○	若年層の受診率が低い、ライフステージ毎の有病状況等の情報を収集、評価管理していく必要がある。
				歯科検診	年1回園医による歯科検診を実施	保育支援課	第一保育園 歯科検診 85人 第三保育園 歯科検診 76人	◎	当日欠席についても、2週間以内に園医に行ってもらうように努める。
	歯科相談・保健指導の機会拡充	歯科相談・保健指導の機会拡充	歯科検診や各種講座の場を活用して歯科相談や保健指導を行います。また広報紙や市のホームページを活用して、歯科口腔や生活習慣に関する啓発を行います。	健康相談 小学生フッ化物塗布時の相談・指導	健康相談 4回 小学生フッ化物塗布 前後期各6回	健康づくり課	健康チェック&健康相談:2回 27人 小学生フッ化物塗布:12回 延1,123人	○	小学生フッ化物塗布受診率は12%であり、全体への指導、啓発は拡充できていない。申込用紙にQRコードを添付し、歯科の情報提供を検討していく。
				7か月児相談 健康教育 歯科口腔の広報・啓発	7か月児相談時に歯科DVDを上映・指導12回 家庭教育学級での講座 2/3以上の小学校で実施 歯科講座の実施	健康づくり課	7か月児相談 552人 99.6% 家庭教育学級 2校 100人	○	家庭教育学級での講座を拡充するために、定期的に担当者合同会議での歯科講座の説明を検討。
	食後の歯磨きを習慣化させる取り組みの啓発	食後の歯磨きを習慣化させる取り組みの啓発	養護教諭や保健委員を中心に、食後の歯磨きを習慣化させる取り組みを行うよう啓発する。定刻になったら音楽を流す等、各校工夫した取り組みを行う。	委員会活動による啓発	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	継続
	障害者・高齢者を対象とした歯科保健事業の実施	障害者・高齢者を対象とした歯科保健事業の実施	障害福祉サービス事業所や高齢者の通いの場などでブラッシング指導など健康教育を行う。口腔機能向上プログラム(オーラルフレイル対策)の実践、口腔相談、在宅訪問歯科診療を実施する。	健康教育(ブラッシング指導)	健康教育実施 15回	健康づくり課	障がい者自立支援施設:16回 延233人	◎	ブラッシング指導を通じて、歯科定期受診につなげていく必要がある。
				訪問歯科診療事業 訪問口腔相談	訪問歯科診療 100人以上	健康づくり課	申込者数:135人 診療延回数:439	◎	引き続き歯科医師会と連携して実施していく。
				地域リハビリテーション活動支援事業	70回(ただし栄養士、理学療法士も含む)	包括ケア推進課	3回	○	依頼の健康教育に対応した。
	歯科に関する介護予防事業の推進	歯科に関する介護予防事業の推進	訪問による個別指導が必要な高齢者を対象に、歯科衛生士が自宅を訪問し、口腔機能の維持向上を図る。また、自立支援型地域ケア会議を開催し、専門職の意見から、適切なケアマネジメントによる有効な支援を行う。	訪問型介護予防指導事業	利用者実人数:7人 回数:25回	包括ケア推進課	利用者実人数:1人 回数:3回	○	必要な人に訪問を調整した。
				地域ケア会議推進事業	検討:30人、回数:12回	包括ケア推進課	検討:23人、回数:12回	○	月1回の開催を継続していく。要介護者の検討も視野に入れていく。
	オーラルフレイル予防の概念を加えた新しい8020(ハチマルニイマル)運動の推進	オーラルフレイル予防の概念を加えた新しい8020(ハチマルニイマル)運動の推進	オーラルフレイル予防を追加した8020運動の普及啓発を推進する。8020コンクールを開催し、該当者を認定する。また、講座等での普及啓発、8020推進員の育成・研修を行う。	健康づくり啓発事業	8020コンクールの開催 8020推進員の育成・研修	健康づくり課	8020コンクール認定者:45人	○	8020推進員の活躍の場を設け、歯周病及びオーラルフレイルについても普及啓発していく。
	歯や口の健康に関するイベントの開催	歯や口の健康に関するイベントの開催	歯と口の市民フェスティバルや歯科講演会などのイベントを開催し、デジタルツールも活用しつつ歯科保健に関する市民の関心を高める。	健康づくり啓発事業	歯と口の市民フェスティバルの開催 1回 歯科講演会 隔年開催 デジタル配信	健康づくり課	〈歯と口の市民フェスティバル〉 R2~R6中止 R7開催に向けて協議 〈歯科講演会〉 会場135人 WEB20人	○	R7規模を縮小して開催予定
	噛ミング30(カミングサンマル)の推進	噛ミング30(カミングサンマル)の推進	口腔機能の発達や維持向上のため、噛ミング30を推進する。乳幼児の相談・健診、健康教育、講座のほか様々な媒体により普及啓発を図る。	7か月児相談 幼児健診 健康教育 健康づくり啓発事業	「噛ミング30(カミングサンマル)」を知っている乳幼児・幼児園児の保護者の割合 30%	健康づくり課	小学4年生を対象に咀嚼チェックカードを使用し、噛む力を測定、評価を実施した。	○	半数以上の児童が噛む力が弱い、7か月児相談や家庭教育学級を通じて保護者への働きかけを行う。
	噛む力を育成するための支援	噛む力を育成するための支援	子どもから高齢者まで健診や相談事業などにおいて、噛むことの効果を周知し、献立や食品の調理方法を紹介することで、家庭で実践できるように支援する。	離乳食講習会 離乳食相談 食生活相談 健康教育	離乳食講習会・離乳食相談・食生活相談・健康教育の実施	健康づくり課	離乳食講習会 12回 244人 離乳食相談 194人 食生活相談 24回 87人 健康教育 36回 1,039人	○	離乳食講習会をはじめ多くの啓発の場で噛むことの大切さを啓発した。今後とも継続していく。
	働き盛り世代からのオーラルフレイル予防	働き盛り世代からのオーラルフレイル予防	オーラルフレイルチェックシートなど口腔機能に係る媒体を活用し、若い世代からオーラルフレイル予防に関する知識の普及啓発を推進する。	オーラルフレイル予防の普及啓発 集団歯周疾患検診	50歳代における咀嚼良好者の割合 85% 集団歯周疾患検診時の保健指導 3回 90人	健康づくり課	50歳代における咀嚼良好者の割合 81.9%(令和4年度) 集団歯周疾患検診時の保健指導 2回 20人	○	今後、取り入れていきたい。
	関係機関等との連携による食育に関する歯科保健の推進	関係機関等との連携による食育に関する歯科保健の推進	歯科衛生士、栄養士、保健師、保育士など多職種が連携し、歯科医師会や学校、保育園など関係機関と協議を行い、食育に係る歯科保健の推進を図る。	食育推進委員会 歯科保健部会	食育推進委員会 2回 歯科保健部会 2回	健康づくり課	食育推進委員会 2回 歯科保健部会 2回	☆	計画どおり実施した。
	歯や口の健康とよい食生活の普及啓発	歯や口の健康とよい食生活の普及啓発	健康講座等で歯や口の健康と食生活は健康の基盤であることを普及啓発する。	カムカム健康プログラム事業	カムカム健康プログラムの実施	健康づくり課	カムカム健康プログラム6回 210人	◎	計画どおり実施した。

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性	
4 自然とつながる食育(自然への感謝)	4-(1) 地産地消・旬産旬消の推進	地場産物や加工品の販売の促進	農産物直売所などにおける地場産物や加工品などの直売を支援し、生産者の顔が見える地場産物の販売を促進し、生産者と消費者の交流機会を設ける。島田市地産地消推進連絡会を開催する。	島田市地産地消推進連絡会	年1回島田市地産地消推進連絡会を開催する	農業振興課	島田市地産地消推進連絡会：令和7年3月25日	○	朝市を継続して開催できる団体が減少しており、島田市地産地消推進連絡会の開催について見直す必要がある。	
				田代の郷温泉運営事業	地場産物及び加工品などの販売日数：伊太和里の湯すべての営業日	観光課	すべての営業日で販売	◎	売れ行きは好調であり、引き続き販売を続けていく。	
		地場産物や加工品の開発・生産促進	地場産物の野菜や果物を使った商品の開発を支援する。	中小企業支援事業	72件	商工課	・お茶と食品に関する商品開発・販路拡大等相談会 89件	☆	定例の相談会に空きがでないように対象者に周知し、実施していきたい。	
						農業振興課	実施なし	×	実施予定なし	
		地産地消に関する情報提供(再掲)	地場産物の生産状況や朝市・販売所などの情報を収集し、朝市マップやホームページの情報を更新していく。朝市マップについては、配布枚数、配布場所の拡充を図り、地産地消を推進する。	【上記再掲】朝市等イベントの情報発信	【上記再掲】朝市、マルシェ等の情報発信を開催の都度行う。	農業振興課	発信なし	×	朝市を継続して開催できる団体が減少しており、朝市として活動を続けているか不明な店もあるため、確認の必要がある。	
		グリーンツーリズムの推進	お茶や季節の地場産物、山菜を使った体にやさしい料理を経験豊富な地元の方と一緒に調理し、食して、食への関心を高める。	農家民宿事業	令和11年度農家民宿件数計9件 農家民宿宿泊者数：630人(9件合計)	観光課	農家民宿件数：8件 農家民宿宿泊者数：788人	◎	毎年1件以上の新規開業を目指すとともに、既存農家民宿のPRを行うことで宿泊者数の増加を図る。	
		生産者などと幼児・児童・生徒の交流	生産者や事業者と幼児・児童・生徒の交流の機会を通じて、農作物の栽培から食べるまでの過程を学ぶとともに食と農林業の大切さについて理解を深める。	栽培・収穫体験	夏野菜の栽培・収穫 園芸店への買い物 販売店への見学 第三地区社協の方と一緒にサツマイモのつるさし・芋掘り(第三保育園)	保育支援課	第一保育園 3・4・5歳児夏野菜の栽培、収穫、クッキング(きゅうり・なす・おくら・ピーマン) さつま芋のつるさし、収穫、クッキング 種の収穫(次年度へ) 第三保育園 3・4・5歳児夏野菜の栽培、収穫 さつま芋のつるさし・第三地区社協の方と一緒に芋掘り 5歳児 JAとの共同活動として稲作り(苗植え・収穫・脱穀・食)	◎	自分たちで育てた野菜に親しみが持てるようにしていく。また、保護者へも活動として様子を写真などで配信し伝えていく。 第一保育園 JAさん協力のもと、稲作を行う(苗植え、収穫、脱穀、食)	
				田植え・稲刈り体験 生産者学校訪問	10回/年	農業振興課 学校給食課	実施なし 学校訪問回数 5校 学校訪問生産者数 6人	×	実施予定なし 継続していく	
				食育担当者会での栄養教諭とのTT授業についての指導案の配布	生産者をゲストティーチャーとして招いたり、地元で取れる農産物を取り入れた献立づくりをしたりする授業の実践例を紹介する。	食育担当者研修会	年度当初の担当者研で配布する	学校教育課	食育担当者研修会で配布した。	◎
		お茶を飲む習慣の推進	市内保育園や小学校などにお茶を贈呈し、給食時に市内のおいしいお茶を飲んでもらい、子どもたちの健康増進のために、お茶を飲む習慣を推進する。また、市民が本市の主要農産物であるお茶についての理解を深められるように啓発する。	【上記再掲】学校給食茶の提供	贈呈量：660kg (島田地区：500kg 金谷地区：160kg 川根地区：0kg)	農業振興課	贈呈量：821kg (島田地区：621kg 金谷地区：200kg 川根地区：0kg)	☆	引き続き、市内保育園や小学校などにお茶を贈呈し、給食時に市内のおいしいお茶を飲んでもらい、子どもたちの健康増進のために、お茶を飲む習慣を推進する。	
		地場産物を活用した食育に関する事業の実施	地場産物をなるべく取り入れたリクエスト献立を募集し給食に採用することで、子どもたちが地場産物への認識、給食への理解を深める。	地産地消の推進	児童生徒作成献立の提供	学校給食課	児童生徒作成献立 小学校11校 中学校6校	◎	継続していく	
		地場産物を活用した料理教室の開催	地場産物や旬の食材を活用した料理教室や食育事業を開催し、地域の農業や旬にこれた食材の優れた栄養なども周知する。	離乳食講習、健康づくりセミナー教室、幸せ未来のココカラ講座、他食育講座	離乳食講習、健康づくりセミナー教室、幸せ未来のココカラ講座、他食育講座の実施	健康づくり課	離乳食講習 12回 244人 幸せ未来ココカラ講座 34人	◎	計画どおり実施した。	
		旬の食材やレシピの紹介	広報紙やFM島田、SNS等のICTを利用し、旬の食材や生活習慣病予防のレシピを紹介する。	FMしまだマイホームタウン、広報しまだ「彩り一品」	FMしまだや広報での普及啓発の実施	健康づくり課	広報誌 12回	◎	計画どおり実施した。	
		4-(2) 食の安全と安心の確保	食の安全に関する知識の普及に向けた講座の開催	栄養士などによる食に関する講座などを開催するとともに、国や県と連携し、食の安全に関する知識の啓発や情報提供を行うことで正確な知識に基づいて食品を選択や食の安全に関する知識の啓発を推進する。	FMLしまだマイホームタウン食推協研修会、健康づくりセミナー 消費者保護事業	FMLしまだや広報での普及啓発の実施	健康づくり課	広報誌12回	◎	計画どおり実施した。
					相談窓口でのパンフレット配布・随時 夏休み親子実験教室の開催	相談窓口でチラシの配架：随時 小学校4～6年生を対象とした夏休み親子実験教室(ビタミンCのふしぎ)については申込数が減少しているため、試験紙の在庫状況や需要により内容を見直し開催していく。	生活安心課	参加者4組(9名)	◎	チラシの配架は継続する。小学4～6年生を対象とした夏休み親子教室「ビタミンCのふしぎ」については申込数が減少しているため、試験紙の在庫状況や需要により内容を見直し開催していく。
					出前講座や依頼があった団体等への健康教育	健康教育の実施	健康づくり課	健康教育 36回 1,039人	◎	しまだ塾等依頼があった講座、健康教育を行った。
食品衛生知識の普及啓発	FMLしまだマイホームタウン食推協研修会、ヘルシー教室				FMLしまだや広報での普及啓発の実施	健康づくり課	食推協研修会 7回 263人	◎		
給食における食物アレルギーへの対応	アレルギーを有する幼児・児童・生徒の状況調査を実施し、現状把握を行う。原材料配合表やアレルギー食品に関する資料を提示するとともに、食物アレルギーを持つ子どもに対応食を提供する。	アレルギーの有無の確認 ・医師による指示書の依頼 ・アレルギー児を持つ保護者との面談	・離乳食児との面談(大きさ・形状の確認) ・アレルギーの有無の確認 ・医師による指示書の依頼 ・アレルギー児を持つ保護者との面談	保育支援課	第一保育園 アレルギー調査90人 除去食対象児 2人 第三保育園 アレルギー調査76人 除去食対象児 0人	◎	1歳児の未摂取食材の確認を丁寧に行う。			
		食物アレルギー対応食の提供	食物アレルギー対応食の提供	学校給食課	アレルギー対応食提供人数 中部給食センター：24人 南部給食センター：13人	◎	継続していく			

計画の柱	施策の方向	具体的な施策	内容	事業名	R11目標値	担当課	R6 事業実績 (回数、人数等)	R6年度末の自己評価	課題と今後の方向性	
		食中毒警報等の発信	県から食中毒警報が発令された場合、同報無線で市内全域に食中毒警報を発信する。	食中毒警報の発信	食中毒警報の発信	健康づくり課	食中毒警報3回	◎	警報はすべて発信できた	
	4-(3) 体験活動の充実	市民農園の開設・運営の支援	市民農園の開設や運営を支援することで、農業体験の場を提供し、農業生産や食への関心と理解を深める。	阪本市民農園の事務局としての運営支援	阪本市民農園全区画(79区画)の利用	農業振興課	40人76区画	☆	引き続き、阪本市民農園の運営を支援することで、農業体験の場を提供し、農業生産や食への関心と理解を深める。	
		各校での人材発掘の促進	食育担当者研修会等で、地域人材を活用する取り組みを紹介し、各校での人材発掘を促す。	食育担当者研修会	年1回の実施	農業委員会 学校教育課	農業振興課で実施 食育担当者会を実施した(年1回)	×	農業振興課で実施 継続	
		収穫体験、農業体験の充実	生産者や事業者と連携して、様々な農業体験ができる機会を提供するとともに、自主グループなどの活動を支援していく。	味噌づくり体験講座	NPO法人が行う味噌づくり体験講座の開催を支援する。	農業振興課	NPO法人しまだ環境広場が開催した。	◎	引き続き、NPO法人しまだ環境ひろばと連携し、手作り味噌講座を開催していく。	
				農家民宿事業	令和11年度農家民宿件数計9件 農家民宿宿泊者数:630人(9件合計)	観光課	農家民宿件数:8件 農家民宿宿泊者数:788人	◎	毎年1件以上の新規開業を目指すとともに、既存農家民宿のPRを行うことで宿泊者数の増加を図る。	
				げんきキッズわくわくクラブ(稲作体験)(金谷公民館)	3回	社会教育課	2回/延べ38人 (雨天のため3回→2回)	◎	子どもの数が減少傾向になっているが、体験を通して食育に関心が持てるよう努める。	
			学校における収穫体験、農業体験の充実	生活科、理科、総合的な学習を通して、各校の学校農園等を利用した体験活動を充実させる。	理科や総合的な学習の授業	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施	◎	継続
			保育園などにおける収穫体験、農業体験の充実	自分たちで育てた野菜を使って調理を行い、食に対する興味、関心を高め、感謝の気持ちを持つように啓発する。	・野菜の栽培 ・クッキング	・野菜の栽培 ・クッキング ・米作り(第三保育園)	保育支援課	第一保育園 きゅうり・なす・オクラ・ピーマン・ラディッシュ・キャベツ・ブロッコリー栽培 収穫(幼児3クラス) クッキング 五平餅 収穫した物を給食に利用 第三保育園 ミニトマト・きゅうり・オクラ・なす・ピーマン・カラーピーマン・さつまいも・キャベツ・大根・米・ブロッコリー 収穫物は持ち帰り、家庭での調理を啓発 米は炊飯し、おはぎを作る。コメに興味が出るように、商店街に散歩した際に米屋訪問。 焼き芋会1回	◎	夏野菜を中心に農業体験から、自分たちで育てた野菜に親しみが持てるようにしていく。また、保護者への啓もう活動として、写真などで伝えていく。 第一保育園 R7米作り
			学校給食センターの職場体験の受け入れ	市内中学校生徒及び特別支援学校生徒の職場体験の受け入れを実施する。	職場体験	市内中学生の受け入れ	学校給食課	市内中学校1校2人	◎	継続していく
			収穫した野菜等を活用する授業の充実	生活科、家庭科等で、自分たちが育てた野菜を使って調理する体験を通して、食に関する興味・関心を高める。	家庭科や生活科の授業	各校の教育計画により確実に実施	学校教育課	各校の教育計画により確実に実施した。	◎	継続
		4-(4) 環境に配慮した持続可能な食育の推進	ごみ減量に向けた啓発	講習会やイベントなどを通して、リデュース(ごみ発生抑制)やリユース(再利用)を広げる啓発を行うとともに、食品ロス問題も扱うことで、問題を認識させる。	出前講座やイベント等でごみ減量の啓発を実施 残量調査	3回/年 残量6.5%以下	環境課 学校給食課	2回 市内19校で取り組みを実施R6年度残量7.6%	○ △	さらなるごみ減量の啓発を実施していく。 個に応じた指導が主となっており、完食指導が厳しくなっている。食への関心を高め、食の楽しさを感じられる給食づくりを行っていく
	ごみの減量や資源化に向けた取り組みの充実		ごみの分別収集方法や収集体制の整備、ごみの資源化などを進めることにより、ごみの減量を進める。	生ごみ処理容器等購入費補助金交付事業	70件	環境課	41件	△	例年、補助金の予算が年度途中で消化してしまうため、数値目標達成のために、財政課と協議する必要がある。	
	食品廃棄物の堆肥化・減量化の促進		食べ残しをしないよう啓発をするとともに、残菜の堆肥化などにより、食品廃棄物の減量に取り組む。	委員会活動による啓発	年1回以上の企画運営	学校教育課	食育担当者研修会のテーマとして取り上げ協議を行った。	○	多様な教育的ニーズのある子供たちの実態を踏まえて、特性や文化に配慮した上での主体的に食べる子の育成について協議していく。	
				生ごみの堆肥化	生ごみ堆肥化率19%	学校給食課	生ごみ堆肥化率18.5%	○	可能な限り、生ごみの堆肥化を図る。	
						環境課	実施なし	×	実施なし	
			エコクッキングの普及	食品廃棄物を減らすため、残った野菜などを利用した献立を、関係機関と連携して広報などで紹介し、食材を大切に作るエコ料理の普及・啓発を図る。	広報しまだ「彩り一品」食推協研修会、健康教育	FMしまだや広報での普及啓発の実施	健康づくり課	広報誌1回	◎	計画どおり実施した。
			家庭科や社会科の授業での学習	水を汚さない調理方法や生ゴミの始末の工夫を授業を通して指導する。	委員会活動による啓発	年1回以上の企画運営	学校教育課	食育担当者研修会のテーマとして取り上げ協議を行った。	○	継続
		フードドライブの推進(再掲)	余っている食品の寄付を市民や市内の事業者等へ呼びかけ、収集してフードバンクへ提供する。市役所や公民館に食品回収ボックスを設置している。	食糧等支援事業	強化月間 4回 収集量 2,484kg	地域福祉課	強化月間 4回 収集量 3,360kg	☆	目標以上に達成できているため、現在の収集量を維持できるように、現在の活動を継続する。	